

令和6年度第1回千葉市図書館協議会議事録

- 1 日 時 令和6年8月8日(木) 10時00分～12時00分
- 2 場 所 千葉市消費生活センター3階 研修講義室
- 3 出席者
 - (1) 委員
石塚千佳 委員・磯野敏和 委員・加瀬紗和 委員
二階堂友和 委員・萩原忠 委員・細川芽 委員
松尾修一 委員・本杉みゆき 委員・安田昌子 委員・吉野知義 委員
 - (2) 事務局
佐久間中央図書館長・鈴木中央図書館管理課長・平岡中央図書館情報資料課長
薬師神みやこ図書館長・稲葉花見川兼稲毛図書館長・及川若葉図書館長
東端美浜図書館長・坂入中央図書館管理課長補佐
萩屋中央図書館情報資料課長補佐
 - (3) 傍聴人
8人
- 4 議 事
 - (1) 委員長及び副委員長の選出について
 - (2) 令和5年度千葉市図書館の評価(案)について(評価実施:R6、評価対象:R5)
 - (3) 令和6年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について
 - (4) 千葉市社会教育施設保全計画(方向性)について
- 5 概 要
 - (1) 委員長及び副委員長の選出について
 - (2) 令和5年度千葉市図書館の評価(案)について(評価実施:R6、評価対象:R5)
 - (ア) 事務局より報告
 - (イ) 外部評価について
 - ・外部評価部会長(前期)より報告
 - ・外部評価案の検討(意見調整)
 - (3) 令和6年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について
 - (ア) 事務局より報告
 - (イ) 質疑応答・協議
 - (ウ) 外部評価部会員の選出について
 - (4) 千葉市社会教育施設保全計画(方向性)について
 - (ア) 事務局より報告
 - (イ) 質疑応答・協議
- 6 会議経過
＜開 会＞
 - ・委員及び事務局職員の紹介
 - ・配布資料の確認
 - ・中央図書館長あいさつ
 - ・事務局より出席確認及び会議の成立について報告

<議事>

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(佐久間中央図書館長)

委員長の選出まで、代わりに議事の進行を務めさせていただく。委員長及び副委員長は千葉市図書館管理規則第24条第1項の規定により、委員の互選により選出する旨、定められているが、委員の皆さんからご意見等ないか。

(萩原委員)

前期にて、図書館の学術経験者である吉野委員長のもと、非常に有意義な会議が運営されていたため、今期においても、吉野委員に委員長をお願いしたいと思うが、いかがか。

(委員)

異議なし。

(佐久間中央図書館長)

萩原委員から吉野委員を推薦いただき、委員全員の賛同を得られたため、吉野委員を委員長に選出することとしたい。

以降の議事進行は、吉野委員長に引き継ぐ。

(吉野委員長)

続いて、副委員長を選出する。副委員長も委員長の選出と同様に、委員の互選により選出する形だが、委員の皆さんからご意見等ないか。

(委員)

特段、意見なし。

(吉野委員長)

私から、前期において、副委員長を務められ、様々な有意義なご意見をいただいた松尾委員を副委員長に推薦するが、いかがか。

(委員)

異議なし。

(吉野委員長)

それでは松尾委員を副委員長に選出する。

(2) 令和5年度千葉市図書館の評価(案)について(評価実施:R6、評価対象:R5)

【事務局から説明】

(鈴木中央図書館管理課長)

資料1に基づき、内部評価に関する以下の事項を説明

- ・「千葉市図書館の評価」の経緯
- ・令和5年度の千葉市図書館評価（案）の構成
- ・内部評価の結果
 - （図書館サービスの基本的な取組事項）
 - 内部評価 B
 - （令和5年度主要事業）
 - 内部評価 A 6項目
 - （取組項目）
 - ・基本目標1 達成1項目、順調2項目
 - ・基本目標2 順調2項目
 - （図書館協議会外部評価部会の意見に対する対応）
 - ・意見に対する取組みを実施しているもの 7項目
 - ・意見に対する取組みについて検討しているもの 7項目
 - ・未対応のもの 0項目

（細川委員（前期外部評価部会長））

外部評価に関する以下の事項を説明

（図書館サービスの基本的な取組事項）

外部評価 B

→令和4年度より、来館者数や電子書籍関連といった数値の増加は評価できるが、図書資料の貸出に関する数値の減少など課題もあることから外部評価 B とした。貸出関連の数値や図書館を利用した市民の割合の増加に努めていただきたい。

図書資料費の確保が厳しい状況の中、寄贈による収集や電子書籍の有効活用など、資料の充実を努めていただきたい。

（令和5年度主要事業一覧）

外部評価 A 6項目

→電子書籍サービスの充実について、提供コンテンツ数、貸出件数など数値の増加は評価できる。今後は学校の生徒などの児童のみならず、忙しい社会人といった大人に向けた電子書籍の展開を期待する。

地域情報サービスの充実について、千葉市の町名考や千葉写真大観をデジタル化し、コンテンツを充実させた点は評価できる。

千葉市民の知の計画的な集積と発信について、千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ計画を策定は評価できる。今後は当計画に基づき、デジタルアーカイブの充実やボランティアなどの市民と共存した体制づくりなど着実に取り組んでいただきたい。

レファレンス機能の充実について、中央図書館にオンラインデータベースを導入した点は評価できる。今後は全市的な利便性の向上のため、地区図書館などの利用者も直接、当データベースを利用できるよう検討いただきたい。

【質疑応答】

（本杉委員）

資料1の6ページ「8. 学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供」につい

て、内部評価が「一」の理由を伺いたい。

(鈴木中央図書館管理課長)

評価「一」は、評価結果一覧にて、「今後取組事項として、研究・検討している」ものと示しているが、ミーティングルームなどの整備については、中央図書館の大規模改修に合わせた検討を想定しており、当分先の対応となることから、内部評価を「一」とした。

(本杉委員)

図書館を再整備する際は、図書館利用者の勉強や意見交換に供するミーティングルームを設置していただきたい。

(加瀬委員)

資料1の3ページ「1. 電子書籍サービスの充実」について、「学校には、夏休み直前に「すぐーる」(学校・保護者間連絡システム)を利用し、電子書籍サービスでの読書を啓発するチラシを一齐メール配信することで利用促進を図った。」とあるが、今年度は案内メール等が届いていないようだが、状況を伺いたい。

(平岡中央図書館情報資料課長)

各学校には、夏休み前に「すぐーる」で、電子書籍に関するメールを配信するよう周知しているところだが、学校によっては対応が漏れている可能性がある。

令和5年度に市内学校の全生徒に対し、学校用の専用IDを付与し、より利用しやすい環境を整備した。この点、学校の校長会や学校図書館指導員へ周知しているところだが、周知が行き届いてない部分もあるかもしれない。

引き続き、学校との会議の場などで電子書籍サービスの周知を図っていく。

(加瀬委員)

電子書籍サービスは、家庭など学校以外の場でも利用できるのか。

(平岡中央図書館情報資料課長)

電子書籍サービスは、利用登録を行えば、Web上でどなたでも利用可能。

学校用コンテンツについては、一冊の資料に対し、複数生徒の利用があった場合でも支障なく利用いただくため、アクセスフリーのパッケージを採用している。

アクセスフリーの都合上、学校用は一般用に比べ、利用できるコンテンツに制限がある状況。

(萩原委員)

学校長として申し上げますと、学校では生徒全員に配布されている学習用端末(GIGAタブレット)にて、電子書籍を活用しているが、先ほどのご説明のとおり、全生徒に学校用の専用IDが付与され、アクセスできるようになった。学校では、古典の授業で「枕草子」を生徒全員で閲覧したり、古典の音声読み上げ機能を使って古文の読みを確認するといった活用をしている。

夏休み前の「すぐーる」での配信について、学校としても対応しているが、不十分

な部分があれば、校長会などで電子書籍の利用について、改めて周知していきたい。

(加瀬委員)

学校図書室で調べものをする際、探していた本を見つけられなかった経験があり、その際、電子書籍サービスを利用できればと思い、伺った。

周りの保護者からも学校からの情報は「すぐーる」が確認しやすいと聞いているため、ぜひ活用していただきたい。また、夏休み前だけでなく、定期的に電子書籍の情報発信を行ってもよいのではないか。

(平岡中央図書館情報資料課長)

「すぐーる」には、スマートフォンで情報を即座に確認できるメリットがあるため、ご意見を踏まえ、より有効活用できるよう検討していく。

(本杉委員)

オンラインデータベースについて、利用状況を伺いたい。

(平岡中央図書館情報資料課長)

日々の利用状況を正確に把握していないが、現場の職員からは、一日0.5人程度の利用があると聞いている。せっかく導入したコンテンツのため、より利用いただけるよう努めていく。

また、図書館職員のレファレンス対応の際にも、有効なツールであるため、図書館のレファレンス機能の向上の観点からも有効活用していく。

さらに、市役所内部の活用として、図書館以外の部署が政策等を検討する際に、オンラインデータベースを活用した事例も2件ほどあり、こうした活用も進めていきたい。

(本杉委員)

市民が気軽にレファレンスサービスを利用できるよう努めていただきたい。

(二階堂委員)

全体として、効果検証をどのように考えられているのか伺いたい。資料1の4ページの「デジタル化した地域資料を情報提供した」や同5ページの「地域情報デジタルアーカイブ（WEBサイト）に掲載した」などについて、その後の閲覧数といった数値上の効果を把握し、内部評価に反映しないのか。

(佐久間中央図書館長)

評価項目について、主に、千葉市図書館ビジョン2040の内容を精査し、現状の項目としているが、同ビジョンは概ね20年先を見据えた計画で、長期的に検討する項目もあることから、単年度の評価においては、具体的な効果が記載できない項目がある中で、長期的な評価項目をどのように扱っていくか、図書館としても課題があると認識しており、今後、改善の余地があると考えている。

(本杉委員)

千葉市図書館ビジョン2040について、およそ5年ごとに検証し、前提条件に大きな変動があった場合は見直しを行うこととなっているが、今年度で策定5年目となるが、状況を伺いたい。

(佐久間中央図書館長)

ハード面の観点になるが、今年度、社会教育施設保全計画を策定し、今後10年間の図書館等の保全の方向性を示す予定だが、当該計画の策定の中で、ビジョンの内容について、見直すべきものは見直していきたいと考えている。

(松尾委員)

外部評価について、大変労力を要する作業だったと思うが、外部評価委員を務められた委員の皆さんに御礼を申し上げたい。

(吉野委員長)

本件について、様々なご意見を頂いたが、事務局からの案を承認してよいか。

(委員)

異議なし。

(吉野委員長)

本案を承認する。

(3) 令和6年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について

【事務局からの説明】

(鈴木中央図書館管理課長)

資料2に基づき、以下の事項を説明

- ・ 図書館サービスの基本的な取組事項に関する評価指標
- ・ 主な取組項目
 - (未来につながる知の収集保存、利活用促進)
 - ・ デジタル資料の提供やインタビュー資料による千葉市民の知の記録と発信及びレファレンスサービスへの活用
 - ・ 地域情報をデジタルアーカイブ化し、インターネット上で公開
 - ・ 地域で活動している郷土史研究者や教員OBなどへ地域に関する情報収集による継続した市民共同体制構築の推進
 - (「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)の構築(多様な主体による知の創出・活用))
 - ・ レファレンスサービスの充実や、出会いのある図書館利用の促進、地域の交流の場とするための講座や企画展示等の実施
 - (未来を担う子どもたちの読書環境の充実)
 - ・ 千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)に基づく各種取組の推進
 - ・ 年長児や小学生への読書手帳の配布や、新就学児への図書館利用申込書の配布
 - ・ 学校図書館と連携した読書活動の推進や、市内小・中・特別支学校に向けた

学校レファレンスカードの利活用の推進

(誰もが利用しやすいサービス環境の実現)

- ・オンラインデータベースの提供によるレファレンス機能の充実
- ・電子書籍サービスの学校向けコンテンツの充実

→これまで評価項目であった「利便性の高い利用認証システムの調査研究」について、認証技術の高度化、外的要因の整備を待つ必要があり、概ね10年後あたりから検討が可能になると見込んでおり、現時点での評価は難しいことから、評価対象外としたい。

(新たな「知」の拠点に向けた運営基盤の再構築)

- ・社会教育施設の老朽化等への対応の方針を定める社会教育施設保全計画の策定
- ・若葉図書館の市民意見聴取の意見・要望や基本計画の内容を踏まえた再整備の推進

→これまで評価項目であった「図書資料等の保存・物流機能の一元化」について、本市図書館の物流機能は現時点で一定程度充実しており、かつ、保存・物流機能の具現化を進める上で関連施設の整備計画等による方向性の整備が必要であり、現時点で評価は難しいことから、評価対象外としたい。

→これまで評価項目であった「施設名称の検討」について、施設名称の検討に関する具体的な予定がなく、現時点での評価は難しいことから、評価対象外としたい。

【質疑応答】

(磯野委員)

評価を行う上で、5年あるいは10年といった中長期的な視点から、各種取組の進捗を管理していく必要があるのではないか。単年度の視点から評価しない項目としたとして、現状の評価の仕組みでは、中長期的にどのように進めていくのか分からないと思うが。

(佐久間中央図書館長)

ハード面の観点としては、今年度策定予定の社会教育施設保全計画により、10年間の方向性を示すことはできる。評価項目は、主に、千葉市図書館ビジョン2040から引用しているため、単年度の評価において、中長期的に取り組むべき項目の取組結果や評価をどのように示すべきか検討しているところである。

ご意見のとおり、評価項目自体を単年度目標とそれ以外の中長期的な目標と区別してお示しする必要性は認識しており、今後、委員の皆様の意見を伺いながら、よりよい形に改善していきたい。

(磯野委員)

私の経験上、事業の評価として、5年単位で目標を設定の上、その中間の3年目で見直すように取り組んできたことから、お伺いした。

早めに進捗したり、実現できなかつたり、計画当初の想定からズレは生じることはあるが、そのズレが許容できるものなのか、随時、見直していく必要があると思う。今後の事業評価の目標設定のあり方について、検討いただきたい。

(佐久間中央図書館長)

様々な部署が関わることになるため、図書館単独で長期の計画は立てづらい事情もある。千葉市全体の計画として、10年ごとの基本計画及び基本計画を具体化するための3年ごとの実施計画があるが、令和8年度から第2次実施計画がスタートするため、そこで令和8年度～10年度の図書館の方向性を示していく形が現実的なのところと考える。この辺りは、市の実施計画の動向にあわせて検討していきたい。

(細川委員)

評価項目について、今年度の実現が難しい項目も含まれていると思うが、こうした項目の表現を検討した方がよい。具体的には、6ページのミーティングルームなどの設置は、中央図書館の改修に合わせた検討となるため、「取組みを推進します」ではなく「検討します」といった表現でないと、来年度の評価の際、「一」（今後取組事項として、研究・検討している。）になり、単年度の目標としては意味をなさないと感じる。

また、10ページ「(4) 自動貸出機による貸出サービスのセルフ化」について、実際に今年度の導入するのか。導入しない場合は、表現を検討した方がよいと思う。

(佐久間中央図書館長)

ご指摘の点について、ミーティングルームについては、今年度整備の予定はない。自動貸出機については、大規模改修や再整備にあわせて導入する考え方であるため、今年度は若葉図書館の再整備に向けて、導入の検討は進めていくが、再整備の時期ではないので、導入の予定はない。

(細川委員)

具体的な予定のない項目の表現はどうされるのか。

(佐久間中央図書館長)

評価項目において、予算の表記がある項目は、今年度、具体的に取り組んでいくものだが、それ以外の項目については、基本的には、図書館ビジョン2040の文言を引用した表現にしている。ご指摘の項目については、検討はするが、今年度は具体的な予定はないというのが実際のところで、全く検討しないということではないので、こうした状況をどのように項目に落とし込むか難しく感じている。表現については、時間が必要なので、今後検討したい。

(二階堂委員)

評価指標について、数値目標があった方がよい。1ページの評価指標について、「前年度増」など達成目標を掲げているが、数値的にどの程度増加させたいのか。また、「現状維持」の項目もあるが、数値的な目標がないので、「前年度増」と「現状維持」の違いが分からない。どのように違いがあるのか伺いたい。

(佐久間中央図書館長)

評価指標については、「前年度増」は、図書館が積極的に取り組み、増加させたい

項目であり、「現状維持」は、実際のところは増加させたいが、増加が難しいものとお考えいただきたい。例えば、図書資料費は、当然増額させたいが、市の財政状況などから、増額は難しく、むしろ、ここ数年は逡減傾向にあり、現状維持に努めるのが精一杯という状況。

ご意見を踏まえ、例えば「〇〇%増」などの表現も検討はできるが、ここ数年はコロナ禍の影響により、コロナ禍以前に比べ、利用状況が落ち込んでおり、また、今後の利用状況の予測もしづらく、数値の設定は難しい状況である。

一方、ご意見のとおり、現状は前年度との比較しか示しておらず、より長期の視点から数値の増減を捉えていく必要があると認識しているため、委員の皆さんのご意見頂きながら、改善していきたい。

(二階堂委員)

来館者数については、デジタルコンテンツが普及しつつある状況の中、一概にリアル来館者数のみが増えればよいということでもない。

年間貸出利用数などは増やすべき項目だが、市として図書館のあるべき利用率などの考えがあると思うので、中長期的な視点での数値の把握が必要と考える。

数値の設定に関しては、一概に5%増、10%増といった表現は難しいと思っている。

(本杉委員)

3点意見となるが、1点目は図書館ホームページに利用しづらさを感じる。例えば、スマートフォンでトップページを見ると、マイナンバーカードの件や、受取希望館の変更方法、図書館の返却ポストの情報が一番上に固定されており、各図書館からの情報を見るために、縦スクロールの操作が必要であり、時間がかかる。できれば、各図書館の情報がページの上部に表示されるよう工夫してほしい。

2点目は、10ページ(3)「インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備」について、「中央図書館を中心に」とあるが、市全体として外国人住民が増えており、子どもは日本語を流暢に話す、親は日本語が話せないといった状況を見かける。今後、「地域の情報センター」を目指すことも含めて、外国人住民に配慮した資料やその周知の充実を図り、こうした方々が図書館に足を運びやすくなるよう取り組んでいただきたい。

3点目は、団体貸出について、「学校運営委員会で選書や運営に関する情報交換を行う」とあるが、千葉市文庫連絡協議会からも、一般の団体貸出に関し、要望しているため、情報交換する場を設けていただきたい。

(佐久間中央図書館長)

1点目について、本市図書館15館の情報が日々掲載される状況であり、どの情報を上部に表示するか、判断が難しいため、現状は全館共通の情報を上部に表示している。ご意見のとおり、各図書館の情報を見やすく表示することは必要であるため、工夫していく。

2点目について、外国人住民の構成の変化を感じており、本市図書館の洋書の構成とギャップが生じていると認識しているため、変化に対応できるよう留意していきたい。

3点目については、今後、情報交換の場を設けさせていただきたい。

(本杉委員)

子どもたち向けの図書館探検ツアーを実施されているが、子どもたちの関心が高く、応募数も多いと思うので、開催回数を増やすことはできないか。子ども的人数は、減っているが、言語を学ぶ場として重要な図書館に子どもたちに足を運んでもらう必要があり、学校と連携した対応が必要と思う。

(平岡中央図書館情報資料課長)

探検ツアーなど子どもたちに向けたサービスを増やすことができれば、未来の図書館の利用者を育てるという意味で有意義だと思うが、他のサービスと並行して実施しており、人的に厳しい部分がある。学校と連携しながら、取り組みを充実できるように検討していく。

また、先ほどの外国人住民への対応に関して、本市には国際交流課という国際交流を支援する部署がある。中央図書館としては、その国際交流課が推奨する分かりやすい日本語での対応や、万国共通のピクトグラムの活用など、外国人住民に配慮したサービスとなるよう努めていく。

(吉野委員長)

様々なご意見があり、表現の部分で検討いただくところはあるが、大きな変更はないと思うので、原則、事務局の案で承認としたいが、よろしいか。

(委員)

異議なし。

(吉野委員長)

引き続き検討が必要な部分はあるが、原案のとおり承認する。

(吉野委員長)

図書館の評価に関して、今期の外部評価部会員を選出したい。外部評価部会員については、千葉市図書館管理規則第26条第2項により、委員長の指名と定められているため、私の方から指名する。

前期から引き続き、細川委員、萩原委員、また、今期からの新たな部会員として磯野委員の3名をお願いしたいと思うがいかがか。

(委員)

異議なし。

(吉野委員長)

それでは細川委員、萩原委員、磯野委員の3名を外部評価部会員に指名する。

(4) 千葉市社会教育施設保全計画（方向性）について

【事務局からの説明】

（鈴木中央図書館管理課長）

資料3に基づき、以下の事項を説明

- ・社会教育施設の整備状況
- ・計画策定にあたって
（事業費の推計、資産経営の基本的な考え方、計画概要）
- ・図書館の目指すべき姿
- ・図書館の機能強化

【質疑応答】

（本杉委員）

若葉図書館の再整備について、これから基本設計となるが、設計した内容を早い段階で、なるべく多くの住民等に周知し、意見聴取に努めていただきたい。

また、8ページの「図書館の機能強化」について、地区図書館は、「特定分野の専門的な資料を揃え、専門的サービスを提供」とあるが、具体的な方向性が決まっているか伺いたい。

（佐久間中央図書館長）

若葉図書館の再整備について、今年度、基本設計を行う予定であるが、周知の時期や方法はこれからの検討となるが、ご意見を伺う機会を設けていきたい。

地区図書館の特定分野の専門資料について、若葉区以外は具体的に検討していない状況であり、各地区図書館の再整備に合わせた検討を考えている。基本的には、各区の目指すべき姿に沿う特色のある資料を揃えていき、その地域ならではの特色を持つ図書館としての役割を持たせたいと考えている。

（本杉委員）

資料の「図書館の機能強化」のように中央図書館・地区図書館・地区図書館分館ごとに役割を分けなくとも良いのではないかと。例えば、地区図書館分館や公民館図書室においても、地域に根ざした活動が必要と思う。

（佐久間中央図書館長）

社会教育施設保全計画を策定するにあたり、図書館としては非常に危機意識を持っている。コロナ禍の影響で、電子書籍サービスの導入が進んだことから、現物の資料を備えた図書館は必要ないのではないかと意見が出てくる可能性もある。電子書籍の現状として、コミックや雑誌の電子化は進んでいるが、通常の単行本の電子化はあまり進んでおらず、図書館の資料全体について、電子書籍化を進められる状況ではない。市全体として、公共施設の規模を縮減する方向性が示されている中、中央図書館や地区図書館は施設を残していく理由を説明しやすいが、地区図書館分館については、危機意識を持っている。地区図書館分館は、特に未就学児の子どもたちのために、絵本と児童書といった現物の本と触れ合える場所としての役割を持たせ、規模の縮減や他施設との複合化という形になるかもしれないが、残せるようにしていきたい。

また、県立図書館の再整備の話もあるが、地域情報など、市の図書館だからこそ

提供できるサービスを前面に押し出して、差別化を図りたいと考えている。この考えは、あくまで図書館の考え方であり、市全体としては公共施設の床面積を減らしていく方向性があるので、厳しい状況ではある。

(加瀬委員)

図書館が複合化する場合、近隣公共施設とはどのような施設を想定しているのか。

(佐久間中央図書館長)

同じ社会教育施設である公民館が一番のターゲットになると思う。これまでの再整備の事例を見ても、花見川図書館はこてはし台公民館と複合化、若葉図書館は千城台公民館との複合化の予定となっている。

(加瀬委員)

例えば、ショッピングモールといった商業施設の中に、図書館を設置できれば、買い物ついでに図書館に寄るなど、便利でよいと思う。

以上